

2014-5年度活動報告（2014年10月1日～2015年9月30日）

A. はじめに

B. 人材育成事業

1. 勉強会
 - ① 寺子屋
 - ② 抄読会
2. 講義・研修
 - ① 講師派遣
 - ② 研修コース設立準備
3. 他機関との連携

C. 研究事業

1. プライマリヘルスケア研究
2. その他

D. 実践事業

1. マウシガ村の環境・健康・平和教育
2. 愛泉会への医師派遣
3. 他 NGO などとの連携

E. 事務局業務

1. 事務所移転
2. 運営
 - ① 人事・労務
 - ② 経理
3. 広報
 - ① ウェブサイト・フェイスブックページ
 - ② 印刷物
4. 職員研修
5. 会員

F. 会計（収支計算書も参照）

本報告書では、当法人の年度は西暦表記（例：2014年10月1日～2015年9月30日は「2014-5年度」）とし、一般的な日本の会計年度に関しては、法人年度との混乱を避けるために元号表記とする（例：2014年4月1日～2015年3月31日は平成27年度）。

A. はじめに

2014年9月末までの初年度は2か月弱（設立からは2か月半）であったので、2014-15年度は12か月間の活動を行った初めての年となった。今年度は「寺子屋」「抄読会」の2種類の勉強会や会員募集を開始し、また名古屋駅に近いNPOステーションに移転するなど、団体としての基盤固めができた1年であった。

B. 人材育成事業

1. 勉強会開催

学生と若手保健関係者を対象にした「寺子屋」、事務局職員の自主勉強会をオープンにするというスタンスの「抄読会」をそれぞれ原則月1回で開催した。（開催実績は別添表1、2）

① 寺子屋

学生、若手保健関係者を対象として、系統講義形式で行った。今年度のシーズン1は基礎疫学を取り上げ、「WHOの標準疫学」をテキストとして用いた。参加費は1回あたり会員500円、非会員1,000円とした。事務局の都合で開催できなかった11月と3月をのぞき10回開催、テキストをほぼ網羅することができた。講師は樋口職員、参加者は各回2～5名、後半はほぼ毎回参加の常連ができた。

② 抄読会

事務局の自主勉強会に関心のある人にオープンにするというスタンスで、参加費ではなく「会場費分担」として、会員・非会員を問わず1人当たり300円を徴収して行った。事務局の都合で開催できなかった2月と4月をのぞき10回開催した。

うち7回はHealth Policy & Planningの2014年の特集号「Science and practice of people-centred health systems」を取り上げ、12本の論文を読了することができた。各回、事務局職員2名が分担して論文を概説、その後参加者も交えてディスカッションするという形式にしたが、質疑応答になることが多かった。7回のうち2回は依頼を受けた出前抄読会（アジア保健研修所と名古屋市立大学）となり、多くの参加者を得たが、それ以外は1～4名と参加は多くなかった。

3回はゲストスピーカーとして、本田文子さん（ケープタウン大学公衆衛生・家庭医学部シニアレクチャー）、金子典代さん（名古屋市立大学看護学部准教授）、西尾彰泰さん（岐阜大学保健管理センター准教授）を迎え、自身による論文、もしくは専門に関連する論文を素材として、それぞれ、低・中所得国における保健経済学（特に離散選択実験について）、セクシャルマイノリティのHIV感染予防、路上生活者の精神保健の話をしていただいた。

2. 講義・研修

依頼のあった講義に講師を派遣するとともに、法人独自の研修コース開催の準備として、「出張寺子屋」を開催した。

① 講師派遣

5件の講師派遣依頼があり、樋口職員が講師をつとめた。うち1件は1単位分(90分×8回)の系統講義の依頼であった。(派遣実績は別添表3)

② 研修コース設立準備

名古屋で毎月行っている寺子屋の10回分を、7.5回(1.5日)に凝縮し集中講義形式とした「出張寺子屋」を、2015年4月18、19日に東京(東邦大学看護学部)で行った。参加費は1人あたり10,000円とした。講師は樋口職員、受講者は修士課程学生5名、博士課程学生1名、保健師1名の計7名であった。横山職員、水元理事、近藤理事が全日程、本田監事が2日目午後に参加した。

3. 他機関との連携

東ティモール国立保健科学院(INS)とINS職員の研究能力向上プロジェクト形成のためのワークショップを2015年11月25、26日に実施した。その際、協働でPDMをドラフトしたものの、INSはその後プロポーサルとして完成することができなかつたため、プロジェクトの実施は困難と判断するに至った。

C. 研究事業

1. プライマリヘルスケア研究

名古屋大学医学系研究科より法人への委嘱依頼を受ける形で、樋口職員が名古屋大学医学系研究科「招聘教員」となり、名古屋大学管理の科研費によるプロジェクトを継続している。経費は全て科研費で賄われており、職員(主に樋口)がBridges in Public Healthの勤務日に研究していることに伴う人件費以外、法人からの実質的な出費はない。

「東ティモールにおける乳幼児栄養不良に関わる母親の健康行動と社会的要因(基盤研究B)」は、平成24~27年度の4年間プロジェクトであるが、東ティモール保健省栄養課、INS、Unicefなどから全国栄養調査の終了を待つようにという要請があつたため、データ収集が2年近く遅れていた。樋口職員が2014年11月より5回出張し、878名分のデータ収集を終了、年度末でデータ入力最終段階である。

2. その他

樋口職員が名古屋大学在職中に指導した学生の研究の論文化、日本老年学的評価研究(JAGES)研究会より投稿許可を得ている論文執筆を継続中である。

2014-15度は新規の研究費への応募をしていない。また、将来的に法人を文部科学大臣指定の「研究機関」として申請するための情報収集を行う計画であつたが、十分な情報収集はできていない。

D. 実践事業

1. マウシガ村の環境・健康・平和教育

科研プロジェクトのデータ収集を集中して行ったこともあり、Plan of Action (Florentino 職員がアジア保健研修所 (AHI) の 2012 年国際研修で作成し、その後修正したもの) どおりには進行していない。Florentino 職員は現在の契約の 2016 年 3 月末で任期終了の予定であるため、2015 年 7-8 月の樋口職員の出張時には、Florentino 職員とともに、今後 3 月末までの活動について、および、その後 Bridges in Public Health としてどのように関わることができるかを話し合った。

この活動を支援する為に、公益法人庭野平和財団公募助成 (前期) に 80 万円で、「世界の人のための JICA 基金」に 88 万円で応募したが叶わなかった。

2. 愛泉会への医師派遣

2014 年 8 月 5 日付で交わした現在の委託契約は 2015 年 3 月 31 日までであったが、自動更新になっているため、2014-5 年度も週 1.5 日の樋口職員の派遣を継続している。2 か所の特別養護老人ホームの健康管理と訪問診療が主な業務になっている。

3. 他 NGO などとの連携

アジア保健研修所 (AHI) とは交流を継続しており、事務局職員が通訳ボランティアとしてイベントなどに参加している。

横山職員が「N さま修了生を対象とした自己研修のための海外渡航」の補助を受けたため、「N さま」(名古屋 NGO センターによる「NGO スタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ」) で 2 回プレゼンテーションを行った。

その他、2014 年 12 月 10 日に、名古屋で開催された NGO・外務省定期協議会に参加した。愛知国際プラザの国際交流団体交流室利用団体登録、および、JICA 中部のなごや地球ひろば利用団体登録を行った。(現時点ではいずれも利用していない。)

E. 事務局業務

1. 事務所移転

2015 年 9 月に名古屋市中村区名駅南 2-11-43 日商ビル 2 階の NPO ステーションに移転した。NPO ステーションは NPO 法人外国人医療情報センター (MICA) が家主の許可を得て管理する非営利団体の共用事務所で、Bridges in Public Health を含めて 8 団体が利用している (うち 6 団体が机を保持)。Bridges in Public Health は机 2 つ、書庫 (85cm 高) 4 つを借り、キャビネット設置料 1000 円/月を含めて、家賃は 25,000 円/月 + 消費税である。9 月 1 日契約、9 月 3 日荷物搬入、10 月 3 日電話・インターネット設置を完了した。

2. 運営

① 人事・労務

横山職員：2014-15 年度末 (2015 年 9 月 30 日) で任期満了となった。

Florentino 職員：東ティモールプロジェクトとの契約終了時（2016年3月31日）に、職員としては任期満了となる。その後もボランティアベースで **Mauchiga** での活動継続を希望しており、協働の方策を検討中である。

鄭職員：科研費の事務補佐員として、業務の場所を名古屋大学医学系研究科より **Bridges in Public Health** 事務所に移して週3回（14時間）の業務を行ってきたが、2015年4月より科研費の事務補佐を週2回（9時間）に減らし、週1回（5時間）は **Bridges in Public Health** との契約とした。**Bridges in Public Health** の業務としては労務、経理、庶務を行っている。

設立以来2013年3月まで樋口、横山両職員は各自で国民健康保険と国民年金に加入していたが、2015年4月1日より全国健康保険協会の健康保険と厚生年金に加入した。また、4月1日に鄭職員の労働保険加入を行った。これらに伴い、**Bee** パートナーズ社労士事務所と顧問契約を結んだ。社労士との連携などの労務は鄭職員の担当となった。

就業規則は、必要に応じて社労士、他 NGO にアドバイスを求めながら、部分的に作成している。

② 経理

2014-5年度から、顧問契約を結んでいる松坂光明税理士により、クラウド上の会計ソフトが導入となった。鄭職員が入力、松坂税理士との連絡など経理を担当している。

3. 広報

① ウェブサイト・フェイスブックページ

これまで、**Google site** に手作りのサイトを作成していたが、株式会社プロテックに「大学病院医療情報ネットワーク研究センター (**umin**)」のホームページサービス上のサイト構築、および現在のサイト内容の移行を依頼した。**umin** という信頼できるサーバーにサイトを置くという以外に、オンラインで会員管理ができる、資料のアクセスを会員限定にできる、サイトへの投稿がフェイスブックページと共有できるなどの利点がある。**umin** サイトは年度末時点で未公開であるが、公開に向けて **umin** 上での準備が進んでいる。

学生など若い世代へのアプローチや小規模法人のマーケティングという観点より、2014年11月よりフェイスブックページを立ち上げ、勉強会の広報や活動報告の一環として利用している。年度末時点でのページへの「いいね！」は129名。投稿へのリーチ数は多い時で1,000を超えている。

② 印刷物

法人パンフレット、法人ロゴとモットー入りのクリアファイルを作成した。法人パンフレットは現在第2版を作成中である。勉強会ちらしなどは適宜作成、印刷するとともにウェブサイト、フェイスブックページで公開している。

4. 職員研修

横山職員が3件の研修に参加した。（研修参加リストは別添表4）

5. 会員

今年度会員募集を行ったが、2015年9月30日までに19名の申し込みがあった。(会員申込と会費入金にはずれがあり、上記のうち5名は2015-16年度になってからの入金である。) また、今までに寄付を入金してくれた3名からも会員として登録可能との承諾を得たため、年度末時点での会員は22名となった。

F. 会計 (収支計算書も参照)

愛泉会からの派遣委託料が主な収入になっている。「公益事業費会費」はJICAより横山職員の研修渡航費として支給されたものでそのまま支出されている。講義、勉強会の収入は178,990円であったが人件費を含む恒常経費を維持できる収益にはなっていない。会費は14人より33口(+1000円を含めて)100,000円、会費以外に2014-15年度の1年間で1,231,000円の寄付があった。研究費・活動助成金などの外部資金の獲得はできていない。

支出では、2名の専従職員の人件費が約7割となっている。その他、雇用保険・社会保険料349,798円、ウェブサイト構築代282,960円(通信運搬費を含む)、家賃192,000円、社労士・税理士への謝金140,400円などが大きな支出となっている。

法人税支払い前の仮収支では、収入総額7,423,464円、支出総額6,693,875円、差引残額729,589円、前年度繰越し金5,051,506円と合わせて5,781,095円となる。ここより法人税を支払った額が次年度繰越金となる。

別添 活動報告リスト

表1. 勉強会（寺子屋）実績

回	日	内容 ¹⁾	参加人数	担当
0	10月22日	1章 疫学とは何か	2	事務局
1	12月12日	2章 健康状態と疾患の測定指標	3	事務局
2	1月9日	2章 健康状態と疾患の測定指標	2	事務局
3	2月13日	3章 研究デザイン	3	事務局
4	4月10日	3章 研究デザイン	5	事務局
5	5月15日	4章 生物統計の基礎	5	事務局
6	6月12日	4章 生物統計の基礎	5	事務局
7	7月3日	5章 疫学における因果推論	2	事務局
8	8月21日	6章 慢性疾患の疫学、7章 感染症疫学	5	事務局
9	9月11日	10章 疫学、保健政策、保健計画、11章 実践的疫学に向けて	2	事務局

1) 章は「WHOの標準疫学（第2版）」

表2. 勉強会（抄読会）実績

回	日時	内容 ¹⁾	参加人数	担当
1	10月30日	特集号より2本	1	事務局
2	11月14日	特集号より2本	2	事務局
3	12月19日	特集号より2本	1	事務局
4	1月16日	特集号より2本	4	事務局
5	3月27日	特集号より1本（アジア保健研修所へ出前 ²⁾ ）	21	事務局
6	5月22日	特集号より1本（名古屋市立大学看護学部へ出前）	16	事務局
7	6月4日	Incentives for non-physician health professionals to work in the rural and remote areas of Mozambique – a discrete choice experiment for eliciting job preference	5	本田文子
8	7月24日	State-level structural sexual stigma and HIV prevention in a national outline sample of HIV-uninfected MSM in the United States	5	金子典代
9	8月28日	特集号より2本	1	事務局
10	9月18日	Prevalence of mental illness, cognitive, disability, and their overlap among the homeless in Nagoya, Japan	10	西尾彰泰

1) 特集号：Science and practice of people-centred health systems (Health Policy and Planning 2014; 29 (supple2): ii1-ii127)

2) 名古屋外国語大学現代国際学部・佐藤都喜子ゼミ、明治学院大学国際学部・平山恵ゼミとの合同

表3. 講師派遣派遣実績

日時	内容	形式	依頼	担当
1月19日 ～ 2月4日	Problem-driven research planning: Quantitative, qualitative, and mixed methods approaches (全8回)	講義・演 習	名古屋大学医学系研 究科・Young Leaders' Program	樋口
3月21日	地域保健・国際保健とは？	勉強会	地域・国際保健につい て考える会「マンゴス チン」	樋口
6月10日	国際保健とはいったい何なの か？何を指すのか？	ゼミ(学 部)	名古屋市立大学看護 学部・国際保健看護学	樋口
6月17日	質的研究の基礎	講演会	藤田保健衛生大学医 学部・公衆衛生学教室	樋口
7月15日	混合研究法について (修士課程「国際保健学特論」)	講義	名古屋市立大学看護 学研究科	樋口

表4. 研修参加¹⁾実績

	日時	内容	備考
1	9月6日～1月10日(6回) (名古屋NGOセンターお よび垂井町)	「広報のプロから学ぶ、伝え方 パワーアップ研修!!」(3日間のイ ンターンシップを含む)	名古屋NGOセンター 主催、参加無料
2	10月31日(JICA) 11月8日～15日(バングラ デシュ) 12月5日(JICA)	JICA パートナシップセミナー	団体分担金 10,000 円 以外 JICA 負担 (152,830 円)
3	11月18日～30日(東ティ モール)	Nたま修了生を対象とした自己 研修のための海外渡航(東ティ モール、マウシガ村プロジェク ト見学とINSでのPCMワークシ ョップ参加)	名古屋NGOセンター から渡航費補助 (100,000円)および 法人負担(135,053円)

1) 参加はいずれも横山職員